

羅 針 盤			方 策	令和3年度 第1回 点検・評価			令和3年度 第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な探究(学習)の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。	・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。	B	B	○各自のテーマが適切か判断しながら、探究活動ができるよう具体的な方法を指導していく。	A	A	○新教育課程の実施を踏まえ、各自のテーマについて、生徒が更に主体的に探究を進められるよう、興味・関心を引き出す工夫を模索していく。
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。	・自己表現が苦手な生徒が多いので、教科毎に様々な工夫を施して言語活動を取り入れ、授業アンケートによってその効果を検証する。	A	A	○定時制における生徒の特性もあり、生徒同士が学び合う環境を全ての学年で作りにくくしながら、教員を含めた話し合いや学び合いについて、できるところから学び合いの形を追求していく。	A	A	○昨年度以来の感染症拡大防止の観点から、ペアやグループでのワークがやりにくいことはあるが、今後も細心の注意を払いながら、話し合いや学び合いを通じた主体的な学習を推進していく。
		③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。	A	A	○今後もきめ細かな指導を行い、生徒一人ひとりに目が行き届くようにする。また、生徒が学年を超えてコミュニケーションを行えるよう、学校行事や部活動を支援していく。	A	A	○個々の生徒が持つ様々な特性を理解した上で、一人ひとりが本校定時制で学ぶことに安心感と充足感を持てるよう、様々な場面で支援を行っていく。
		④ 継続して登校できるようになり、授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が80%以上いる。	・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力や社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。	B	B	○登校しやすい環境、個に応じた指導を心がけ、これまで足りなかった部分を補えるよう指導する。 ○教育相談体制を整えて、問題を抱えたときに、気軽に教員に相談しやすい環境をつくる。	B	B	○今後も教育相談的な対応も重視しながら、生徒への目配り、声かけを行い、居場所作りを心掛けるとともに、学び直しも含め、基本的な学習内容が定着できるように授業についての工夫も行っていく。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 部活動の大会や地区体育大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。	B	B	○生徒の状況によって部活動の参加状況は変動するが、活動する意欲のある生徒を支援する。また、総合学習等を通じて、各種検定を受けられる環境は常に整えておき、受検を積極的に呼びかける。	B	A	○部活動については、2学期に大会が開催されなかったことなどでやや活動が不振となったので、まずは下級生を中心に恒常な活動を促していく。検定試験についても教科指導を通じて多くの生徒に受験を呼びかけていく。
		⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上いる。	・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。	B	B	○定期的に授業改善に向けた会議を開き、生徒個人個人の特性に配慮した、個別指導・対話的学習などの積極的な導入に向け努力していく。 ○必要に応じて補習を呼びかけるなどして基本的な内容の定着ができるよう支援する。	A	B	○近年学力差がより大きくなってきたことを踏まえ、上位者、下位者それぞれに個別の指導を今まで通り進めていく。下位者については従来より早期から取り組ませたり、学習障害が疑われる場合には通級などの利用も促したりすることなど、更にきめ細かな対応をしていく。
		⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率7割以上の生徒が60%以上いる。	・国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。	B		○間違えやすい漢字を取り上げ、授業で解説をすることで、さらなる定着を目指す。	B		○様々な教科での活動を通じて漢字習得の重要性に気づかせ、更に多くの生徒が積極的に学習に取り組むように促していく。
		⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化を特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかに支えるよう支援する。	A		○生徒の状況をよく観察し、変化があれば職員間で共有する。さらに、生徒の問題を一人で抱えず、全職員で組織的に指導に当たる。	A		○今年度後半から設置した定期的(2週に1回)に生徒の情報を共有するための会議を活用して、全職員で組織的に生徒の支援を進めていく。 ○SCからの情報共有に、養護教諭(非常勤)も参加できるようにして、より多方面から生徒を支えられるようにする。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対応に努め、解消率が100%である。	・SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対応する。	A	A	○学校生活を細かく観察し、気になったら職員間で共有してきめ細やかな指導を行い、迅速に対応する。また、授業中の生徒のやりとりなどにも注意を払う。 ○いじめが発生した場合は、基本方針に従い迅速・適切に対応する。	A	A	○きめ細かな生徒観察を行いながら、変化が見られた場合には直ちに対応する。SNS上や教員から見えない部分でいじめが発生することもあるため、生徒にいつでも相談できることを認識させ、相談しやすくする。外部の相談機関も積極的に紹介する。
		⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	・個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。 ・家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。	B		○欠席等の場合、家庭と必ず連絡をとり、特に生活習慣や健康管理についての情報を共有する。 ○仕事との両立を支えるため、個々の生活状況について把握し、必要なアドバイスを行う。	B		○家庭との連絡を密に取り、心身の健康管理等連携して生徒の指導に当たる。特に、感染症拡大によるイレギュラーな休校や分散登校などの時期にペースが崩れないように細心の注意を払う。また、魅力ある学校作りにも努め、登校への意欲を喚起する。
		⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。	・上級学年を中心に、進路に関する生徒個別面談を実施する。 ・進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。	A		○LHRや授業前後の時間を使い、大学見学の勧めや就職についての具体的な手順等について全体及び個別に対応する。 ○ハローワークや大学、専門学校に積極的に訪問したり、進路講演会に参加したりすることで最新情報を入手する。 ○放課後に進学希望者に対して、志望理由書の書き方指導を継続して行う。	A		○進路講演会の時期を早め、大学と専門学校等との順番を入れ替えたところ、生徒の反応が格段に良くなったことから、次年度以降もこれを踏襲していきたい。 ○最終学年になってから初めて本気で進路を考え始め、行き詰まる生徒が散見されることから、低学年のうちから進路意識を醸成するよう指導を進める。 ○外部の模擬試験を受験する生徒も現れ始めたので、このような機会があることを広く周知して参加を勧めていく。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。	・年2回以上の保護者面談や進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。	A	A	○生徒の進路希望について保護者面談等を通じて確認し、生徒の支援の仕方について共通理解を図り、進路講演会などの行事を進路情報提供の場として活用していく。	A	A	○保護者面談等の機会にじっくり時間を取って情報提供していることもあり、保護者の理解は確実に上がっている。今後もこの傾向を維持したい。
		⑬ 在校生の就業率が50%以上である。(アルバイトを含む)	・個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。 ・雇用主と連携して、協力関係を保つ。	A		○感染症対策を徹底した上で、可能な範囲で就労体験を積極的に勧める。また、進路学習を進める中でも、就労意欲の向上を促していく。 ○必要に応じて職場へ訪問し、生徒に関する支援関係を構築する。	A		○今年度は低学年のうちから積極的に就業する生徒が増えた。感染症拡大予防には充分注意し、さらに過半数が不登校経験者であることに留意しながらも、社会と積極的に関わられるよう指導を進める。 ○必要に応じて雇用主との情報交換を行い、生徒への支援を進めたい。
		⑭ オープンスクールや中学校訪問による学校説明、案内等を年3回以上行う。	・オープンスクールや各中学校への訪問を通して、本校定時制の良さをアピールする。	未		○中学校教員や保護者などに定時制の魅力や直接訴え理解を得るとともに、在籍生徒の学校での様子を伝えることなどを通して、本校定時制に対する信頼を確立する。	A		○感染症拡大予防に充分配慮しつつ、中学校教員や保護者に対して直接定時制課程の魅力や訴え、生徒の活躍を伝える貴重な機会として、今後も積極的にしていきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。	・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。	B		○学校行事に限らず、学習活動の成果など、様々な面から生徒の活躍がわかるような紙面構成にする。	A		○今年度は、昨年度より頻繁に、しかもタイムリーに「定時制便り」を発行した結果、生徒保護者からの反応も格段に良くなった。この状況を維持していきたい。
		⑯ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。	・様々な学校行事で、地域の外部講師を招聘する(ただし、感染症の状況により中止の可能性もある)。	A		○感染症対策を徹底した上で、可能な範囲で外部講師を招いての講演会等を実施していく。	A		○昨年度はかなわなかった外部から講師を招いての講演会等が、今年度は従来に近い形で実施できた。感染症の状況にもよるが、次年度さらに確実に実施していきたい。
		⑰ ICT機器を活用した授業を行った教員が100%である。	・各自が効果的な使用法を研究し、授業公開や校内研修等の機会を利用して成果を共有する。	A	C	○授業では、それぞれの教員が様々なICT機器を使用しているが、一人一台端末についても、さらなる利用を進めていく。	A	B	○ほとんどの授業でICTが活用されている。一方で、chromebookの授業での利用については、まだ教員間で温度差があるので、その積極的な活用を進めていく。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	15 ICT機器を活用した業務改善を行っていますか。	⑱ ICT機器を活用して成績処理を行った教員が100%である。	・全職員がスクールネットを使用して成績処理や指導要録・通知表等の作成をすることで、業務の効率化を進める。	A		○全職員がスクールネットを使用して成績処理や通知表・調査書等の作成をしており、各自が利用方法についてさらに熟達できるように進めていく。	A		○全職員がスクールネットを使用して成績処理や通知表・調査書等の作成をしており、次年度についても、各自が利用方法についてさらに熟達できるように進めていく。